

平成30年度第1回 函館市企業局経営懇話会 会議録

【開催日時】 平成30年7月23日（月） 午後3時30分～午後4時45分

【開催場所】 函館市企業局庁舎4階大会議室（アクロス十字街）

【次 第】

- 1 開会
- 2 企業局長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 企業局管理職紹介
- 5 議 事
 - (1) 会長の選出
 - (2) 副会長の選出
- 6 報告・説明事項
 - (1) 企業局経営懇話会について
 - (2) 企業局の組織と主な業務について
 - (3) 事業の概要について
 - ア 水道事業
 - イ 下水道事業
 - ウ 交通事業
 - (4) 平成30年度企業局各会計予算の概要について
 - (5) 函館市上下水道事業経営ビジョンおよび函館市交通事業経営ビジョンについて
- 7 その他
- 8 閉会

【出欠状況】

■委員（出席15名）

（○は出席，敬称略）

所 属 団 体	氏 名	出 欠	所 属 団 体	氏 名	出 欠
公立はこだて未来大学	木村 健一	○	連合北海道函館地区連合会	樋口 信一	○
函館地域産業振興財団	三浦 汀介	○	函館市恵山地域審議会	斉藤 勝昭	○
北海道税理士会函館支部	川田 博仁	○	函館商工会議所	竹内 正幸	—
北海道電力株式会社送配電カンパニー函館支店	檜原 一郎	○	函館水産連合協議会	吉村健太郎	○
函館市社会福祉協議会	佐藤 秀臣	○	函館地区バス協会	渡部 浩典	○
函館市女性会議	佐々木 香	○	函館湯の川温泉旅館協同組合	大桃 誠	○
函館市町会連合会	木村 鶴一	○	一般公募	佐藤 好子	○
函館消費者協会	森元 浩	○	一般公募	山本 秀治	○

■事務局（出席23名）

川越企業局長

- ・ 管理部 川村部長，成澤次長，細越総務課長，臼杵事業推進担当課長，高木経営企画課長，田中経理課長，木村料金課長，藤谷収納・滞納整理担当課長，川井東部営業所長
主査3名（経営企画課3名）
- ・ 上下水道部 加保部長，金野次長，米田管路整備室長，濱坂業務課長，船山計画・管路担当課長，丹内維持管理担当課長，鈴木温泉等担当課長，加地浄水課長，川村終末処理場長
- ・ 交通部 田畑部長，高坂次長，岩田事業課長，廣瀬施設課長

【会議発言概要】

1 開会

経営企画課長

これより平成30年度 第1回 函館市企業局経営懇話会を開会します。

2 企業局長 あいさつ

経営企画課長

はじめに、企業局長 川越 英雄からごあいさつを申し上げます。

企業局長

どうも皆様こんにちは。企業局長の川越でございます。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

開会にあたって一言ごあいさつをさせていただきます。本日は、皆様大変お忙しい中、御参集賜りまして、誠にありがとうございます。また、皆様方におかれましては、当懇話会の委員に御就任いただきまして、誠にありがとうございます。前懇話会から、引き続き委員に御就任いただいております皆様方におかれましては、改めまして、どうぞよろしくお願いを申し上げます。また、今回、初めて、この委員に御就任いただいた皆様方におかれましては、これからどうぞよろしくお願いを申し上げます。

私ども、企業局は、水道事業、公共下水道事業、そして交通事業の3事業を運営しております。これらはいずれも市民生活や社会経済活動に欠かすことのできないサービスを提供する大変重要なインフラでございます。

函館の路面電車は、平成25年に100周年を迎えました。また、水道につきましては来年度130年を迎えるということで、いずれも長い歴史をもつ事業であります。

現在の人口減少時代の中でありまして、水需要の減少や市電利用者の減少などによりまして、料金収入が減少をしているところでございます。また、老朽化した施設や設備の更新など、施設維持に係る費用が増加している状況にございまして、それぞれの事業を取り巻く環境というものは大変厳しいものがございます。

こうした中でありましても、私ども企業局の使命といたしましては、安全で快適な市民生活に貢献するため、健全な経営のもと各事業におけるサービスの提供を続けるということでございます。

こうした考えのもと、一昨年、経営懇話会の委員の皆様から御意見をいただきながら、平成29年度からの10か年を計画期間とした上下水道事業経営ビジョンならびに交通事業経営ビジョンをそれぞれ策定したところでございます。現在は、このビジョンに基づきまして、各種施策に取り組んでいるところでございまして、こうした中で健全な経営に努めているところでございます。

委員の皆様方におかれましては、当局の事業について、一層の御理解をいただくとともに、是非、この会議の場におきまして、さまざまな分野、そして、さまざまな視点から、忌憚のない御意見をお聴かせいただき、企業局の健全な経営に対し、お力添えを賜りますよう、どうぞよろしくお願いを申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

3 委員紹介

(経営企画課長から、氏名読み上げによる紹介)

4 企業局管理職紹介

(経営企画課長から、職名・氏名読み上げによる紹介)

5 議 事

(1) 会長の選出

経営企画課長 会長の選出につきましては、当懇話会の設置要綱、第5条第2項に「会長および副会長は、委員の互選により定める」と規定しております。
どなたか、ご提案ございますか。

吉村委員 これまで経営懇話会で会長職を務めた実績から、三浦委員がいいかと思えます。

経営企画課長 吉村委員より、会長を三浦委員にという御推薦がありました。いかがでしょうか。御賛同いただける場合は、拍手をお願いします。

(会場 拍手多数)

経営企画課長 拍手多数により、三浦委員に会長をお願いしたいと思います。
それでは、三浦会長は会長席へお移り願います。

(三浦会長 会長席の移動)

経営企画課長 それでは、早速ではございますが、三浦会長に一言ごあいさつと、この後の議事進行をお願いします。

三浦会長 会長を引き受けることになりました三浦でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、最初の懇話会なので、一言ごあいさつ申し上げます。

企業局の使命ですが、平成28年度の企業局運営方針によりますと、安全で快適な市民生活に貢献するため、健全な経営のもと、各事業におけるサービスの提供を続けていくこととなっております。これは皆さん御存じかとは思いますが、一方、現実の社会のほうに目を転じて見ますと、非常に最近、高度に情報化する社会の持つ課題やエネルギー問題など、多くの難しいハードルが散見していることは確かでございます。最近、内閣府が行うソサエティ5.0という科学技術政策が提案されたところがございますが、これは情報社会、これはソサエティ4.0という説明になってはいますが、その次に来る社会ということで、ソサエティ5.0というようになっていくところなんです。興味深いのは、サイバー空間、仮想空間。それとフィジカル空間、これは現実空間。これを高度に融合させたシステムによって、経済発展と社会的課題の解決を両立していこうという人間中心の社会を目指しているものがございます。

また、エネルギーに関するものに関しては、ユーティリティ3.0というビジネスモデルがございます。ここで詳しくこの話をするわけにもいきませんですけども、簡単に紹介いたしますと、これからは自由化、脱炭素化、分散化、デジタル化、人口減少という5つのメガトレンドによって、エネルギー産業というものが、ユーティリティ1.0、1.5、2.0それで今回のユーティリティ3.0という方向に向かうということになるもので、今後検討していくことになる函館市の上下水道事業と交通事業の経営ビジョンについても、このようなバックグラウンドに社会のメガトレンドがあることを念頭におきながら、現実的な検討ができれば、この懇話会の役割も意味があるものになるのではないかと考えております。皆様の御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、会長を引き受けることにあたりましてのごあいさつといたします。

(2) 副会長の選出

三浦会長 それでは、引き続きまして、副会長2名の選出でございます。

副会長は、互選で定めることとなっておりますが、私をサポートしていただく職ということで、よろしければ私の考えを述べさせていただきたいと思えますが、いかがでしょうか。

(各委員 同意)

- 三浦会長 ありがとうございます。
 それでは、私の案ですが、これまで副会長を務めていただいた実績から、木村健一委員と佐藤秀臣委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。
 よろしければ、拍手で御承認いただければと思います。
- (会場 拍手多数)
- 三浦会長 ありがとうございます。それでは、副会長は、木村委員と佐藤委員に決定いたしました。
 お二人は副会長席へお移り願います。
- (木村健一副会長、佐藤秀臣副会長 副会長席の移動)
- 三浦会長 それでは、木村副会長と佐藤副会長から、順番に一言ずつ、ごあいさつをしていただきたいと思います。
- 木村副会長 ただいま御指名をいただきました木村でございます。この最近では、災害続きということで、特に、こういう災害が、大きなものが起きますと、常に、今回の議題の中にも出てまいりますけれども、こういった事業体のことが、いろいろ不備があるのではないかと、こういうふうにしたほうがいいんだというようなことが、急に議論が盛り上がるわけですが、私ども、この企業局が日々、積み重ねていくさまざまな事業というのは、まさに普段、あって当たり前の、ちゃんと動いて当たり前というような、そういう事業になっているのではないかと思います。それで、これから人口減という問題を常に抱えながら、ただし、これらは、どんな災害が起きても、堅牢に維持していくということが、そのときになって求められるのではなくて、日々、求められているんだというようなところで、この会議の存在意義をですね、ビジョンを立てて、それを常にこの会議の中で拝見して、市民目線でさまざまな議論を重ねながら、持続可能な事業として、継続できるようなことをここでは十分に議論していきたいなというふうに思っております。私、会長をお支えして、この場でのさまざまな議論が有意義になるように、努めさせていただきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いたします。
- 佐藤副会長 指名いただきました佐藤でございます。どうぞよろしくお願いたします。いろんな議論がされるのですが、すべての議論というのが、市民目線での議論というのが多くてですね。この企業局の業務の内容というのは、一般市民に対してどういうふうに企業局として、さまざまな提供をしていくのかということに尽きるのかなと思っております。市役所自体が、そういったことを中心に行っているわけですが、特に、市民に立った、さまざまな施策を講じているのが企業局なのかなと思っております。そういった意味では、私たち懇話会でいろんな意見を出しながら、企業局がこれからますます継続発展していけるように、私たちとしても、微力ながら、努めていく必要があるのかなと、思っております。会長をサポートする立場も、副会長ですので、この任期頑張っってやっていきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願をいたします。
- 三浦会長 どうもありがとうございます。それでは、本日の議事は以上となります。
- 6 報告・説明事項**
- 三浦会長 次は、次第の6の報告・説明事項です。事務局、お願いします。
- 経営企画課長 私どもから、企業局経営懇話会、企業局の組織等など、順次、御説明をさせていただきます。

(1) 企業局経営懇話会について

＜資料説明＞（経営企画課長）

(2) 企業局の組織と主な業務について

＜資料説明＞（総務課長）

(3) 事業の概要について

ア 水道事業

イ 下水道事業

＜資料説明＞（計画・管路担当課長）

ウ 交通事業

＜資料説明＞（交通部次長）

(4) 平成30年度企業局各会計予算の概要について

＜資料説明＞（経理課長）

(5) 函館市上下水道事業経営ビジョンおよび函館市交通事業経営ビジョンについて

＜資料説明＞（経営企画課長）

経営企画課長

報告・説明事項については以上ですが、各委員から何か御質問はございますか。

山本委員

資料14ページの交通事業のほうで、年間走行キロメートルが減ってということになると、当然収入も減ってくるということになりますが、これは何故、減っているのでしょうか。

事業課長

年間走行キロメートルの増減の関係でございますけれども、予算上、通常の運行については、計画と変わりはないですけれども、増便や貸し切り車両といったものの変化で増減が多少出ているものであります。また、箱館ハイカラ號については、今まで週5日運行していましたが、今年は週末運行となりましたことも含まれてございます。

川田委員

各事業の予算の中で、その他支出というのが異常に大きいです。例えば、公共下水道事業会計では、収益的支出総額の中でその他支出が50%以上になっております。財務諸表の示し方として、これはいかなものかと思えます。口頭での説明、補足により、減価償却費と消費税であるということでしたけれども、それにしても支出の中の半分以上を占めるのであれば、欄外に注釈をつけるとか、もう少し丁寧な、委員の理解を進めるような形にしていただきたいです。

それから、例えば、公共下水道事業会計の中で、その他支出13億4千万円は減価償却費と消費税であるという説明でした。そうしますと、下の括弧書きの中の差引(A)から純損益を出すところの説明も消費税相当額を控除しているという説明でした。これでは消費税を2回引いているというふうに見えます。

もう一点、最後ですけれども、減価償却費をこういう説明の中に盛り込むのであれば、減価償却費のほかに、減価償却累計額と残存価格も一緒に示していただきたい

い。上下水道というのは、設備がすべての事業だと思いますので、この設備が果たしてどのくらい古いのか、更新が必要なものなのかということが、この財務諸表の中から読み取れなくなります。これはお願いです。今後、こういう資料を示す場合に、そのようにしていただきたい。

消費税の二重控除については、ちょっと一言、回答いただければと思います。

経理課長 懇話会の資料の項目については、ビジョンの財政計画の項目に基づきまして、それに合わせた予算科目で作ったおりにまして、次回懇話会での決算説明の際には、その辺改めまして、わかりやすいように作成したいと思います。

川田委員 消費税については、いかがですか。消費税が二重控除されているような説明でしたけれども、そのような理解でよろしいでしょうか。その他支出の中に消費税が入っているという説明でした。それを引いた差引（A）の中から、さらに消費税相当額を引いて、当期の純損益を出しますという説明でしたが、一つの消費税が2度控除されているように聞こえますけれども、そういう理解でよろしいのでしょうか。

経理課長 すみません。説明のほうが不足でした。消費税の二重控除ということはございません。

川田委員 それでは、公共下水道事業会計の中で、実際の消費税相当額は幾らだったのでしょうか。この表ですと9千万円というふうに読めますけれども、それでよろしいですか。差引（A）から純損益の差額というのは9千万円ありますよね、それが消費税相当額だったのでしょうか。

経理課長 消費税相当額につきましては、公共下水道の支出の「その他」37億4千万円の中に含まれておりにまして、そのうち消費税および地方消費税は、約1億2,800万円を計上してございます。

川田委員 そうすると、差引（A）から純損益にいく段階の差額と随分違いますよね。この差額が消費税であるという説明でしたのお聞きしております。

経理課長 今、手元に内訳がありませんので、後ほど、御説明できる資料を用意させていただきたいと思います。

7 その他

三浦会長 7のその他でございしますが、各委員から何かございしますでしょうか。

(発言なし)

三浦会長 ないようですので、本日の会議日程は以上となりますので、進行を事務局にお返しします。

8 閉会

経営企画課長 以上で、本日の日程はすべて終了となりますが、本日の会議録につきましては、この後、事務局にて案を作成し、後日、各委員に郵送させていただき、御確認いただく形で作成してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

以上で、平成30年度第1回函館市企業局経営懇話会を閉会します。どうもありがとうございました。